

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

夏のバカンスにはロングドライブ。できれば助手席には恋人を乗せて――。中年世代が若い頃に抱いていたような夢は、今ではリアリティーを失いつつあるのかもしれない。

①「若者のクルマ離れ」という言葉が広まって久しい。今年の消費者白書が、改めてその実態を記していた。30歳未満の男性単身世帯で自動車の普及率をみると、2004年の61%が、その10年後には46%にまで下がった。

最近の若者はモノへの執着が薄いと見る向きもある。だが白書は、若者の消費行動の背景には将来への不安がある、ともいう。物心ついてからずっと低成長。長く勤めたら賃金が上がるという期待ももてない。

「買わない」のではなく「買えない」。そんな側面もあるのではないか。30代半ばの若手評論家、古谷経衡ふるやつねひらさんも、ネット上での調査を引きながら自著で主張している。〈可処分所得が上昇すれば、自然と若年層にクルマ熱は戻ってくる〉。

「若者の××離れ」。そんな言い方がされるモノは数多い。本当に消費への関心は失われているのか。確かめる方法がある。余裕をもって暮らせる賃金をきちんと払うこと、だ。

〈二〇一七年八月二八日 読売新聞朝刊「編集手帳」〉

語注

*今年(3)：二〇一七年。

*消費者白書(3)：消費者に関する問題や政策についての調査報告書。

消費者庁が毎年発行している。

*可処分所得(8)：給与やボーナスから税金や保険料などを差し引いた、個人が自由に使えるお金。

問一 傍線部①に対する筆者の考えとして最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 将来への不安から消費を控えていては経済成長は望めないで、多少無理をしても大きな買い物をすべきだ。
- イ 物欲に乏しい最近の若者にも購入したいと思わせるような、魅力的な車をメーカー側が開発する必要がある。
- ウ 車を買っても生活に困らないだけの収入を与えなければ、本当に若者が車に興味がないのか判断できない。
- エ 賃金上昇の見込みがないからといって、車を買えないと簡単にあきらめてしまう最近の若者は情けない。
- オ 若い男性の単身世帯で車の所有率が下がっているのは、十年前よりも趣味が多様化したからである。

問二 本文の表現の特徴として適当でないものを、次から一つ選びなさい。

- ア 具体的な数値を提示することによって、論に客観性と説得力を持たせている。
- イ カタカナ語を多用することによって、文章に硬派な雰囲気を持たせている。
- ウ 親しみやすい話題から文章を書き出しており、読者を引きつけている。
- エ 一文が短く、起承転結のはっきりした歯切れのよい文章である。
- オ 他者の説を引用することによって、自説を補強している。

語彙力を鍛える!! 追加問題 (※目標解答時間・正答率には含まない。)

A 次の漢字の読みを答えなさい。

① 執着 (5) 「」

② 若年層 (8) 「」

B 「関心」(9)の同音異義語として「感心」「歓心」がある。次の空欄に「関心」「感心」「歓心」から適当な語を選んで入れなさい。

① マナーのよい小学生に 「」

「」する。

② 生命科学の分野に 「」

「」を抱く。

③ 上司の 「」

「」を買おうとする。

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

古典を読むと、物事^①を相対的に捉える目が養われます。現代だけしか知らない、私たちは自分の生きている現代の価値観や習慣が絶対のものだと信じ込んでしまいます。古典は私たちの生きている現代とはかなり違った価値観や習慣を示してくれます。

たとえば、平安時代の作品に見る^②一夫一妻多妾制^③。現代の一夫一婦制から見ると、とても不自然に思えます。でも、当時の貴族社会においては、当然のように受け入れられています。あるいは、江戸時代の作品に見る^④男色^⑤。現在から見ると、いささか異様に思えます。でも、その時代においてはそれがむしろ崇高なことですらあった。そうした現代とは全く異なる物の見方や生活習慣を知ることによって、私たちは現代を絶対と見る見方から脱出できるのです。物事を絶対と見るところには進歩はありません。なぜなら、現代が一番正しいと信じてしまい、傲慢になり、他から学ぶ必要は何もないと思うからです。

同じ日本人でも、時代によって発想や表現方法や価値観が違うことを知ることこそ、私たちに相対化の視点を与えてくれるのです。古典を読むこと、それはあなたの物の見方を相対化するチャンスなのです。〈山口仲美『日本語の古典〉

語注

*一夫一妻多妾制(4)：一人の夫に一人の妻という夫婦関係の他に、夫が経済的に面倒を見る多くの愛人を持つ制度。

*男色(5)：男性の同性愛。

問一 傍線部①についての説明として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 世界に不変のものはなく、すべての物事は変化していくと考えるようになる。
 イ 他者を排除する考え方をやめて、対話によって問題を解決できるようになる。
 ウ 普遍的な真理を求めて、他人の考え方から謙虚に学ぶことができるようになる。
 エ 異なる物事どうしを比較して、さまざまな面から見るができるようになる。
 オ 相手の物事の見方を正しいと信じて、受け入れることができるようになる。

問二 本文の内容に合致するものを、次からすべて選びなさい。(元答)

- ア 古典を読むと現代の価値観や習慣などが絶対的なものではないとわかり、見方を広げるきっかけが得られる。
 イ 古典を読むことは昔の人々の価値観や習慣を知ることであり、伝統文化に詳しくなるためにも必要である。
 ウ 古典を読むと現代の文化と昔の文化の違いに気づくことができ、両者の違いを通して思考の幅が広がる。
 エ 古典を読むと昔の価値観や習慣が合理的であることに気づくことができ、現代への批判の目が養われる。
 オ 古典を読むことで昔の人々の思考がいかに優れていたかを学び、それを現代に活かすことができる。

語彙力を鍛える!! 追加問題 (※目標解答時間・正答率には含まない。)

A 次の漢字の①読みと②意味を答えなさい。

- (1) 崇高 (6) ① ①

- ② 傲慢 (8) ① ②

B 「相対的」(1)の対義語を答えなさい。

①

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

日本語の特徴は、漢字仮名——この場合には、ひらがな——まじり文からなる上に、どんな外国語・外来語でもカタカナで近似的に音写することで、自国語の構文を壊さずにそのなかに取り込めることにある。これはたいへん便利なことである。このような日本語の持つ柔軟性は、日本の経済発展や諸外国の文化を採り入れる上で、少なからず役立っている。しかし、その反面で、日本語のなかにカタカナの外来語や外国語がとかく感覚的、気分的に安易に導入され、意味がよくわからずに感じただけで使われることに対しては、野放しにしておくべきではなからう。

たしかに漢字によって意識せずにカタカナで音写しておけば、原語の持つ多義性を保存できた(気分)になれる上、新鮮な感じがするし輝いて見えることもある。だから、学術用語としてばかりでなく、広告・宣伝用語としても、新社名としても、カタカナの外国語が好んで使われるのである。この(カタカナの外国語)は、もうすでに日本語になっていると言ってもいいので、排除することなどできないが、それだけに、漢字による意識に対するのと同じく(うるさい眼)を、(カタカナの外国語)の使用法には持つべきであろう。

〈中村雄二郎『術語集Ⅱ』

問一 (カタカナの外国語)が使われる理由として適当なものを、次から一つ選びなさい。(完答)

- ア カタカナの外国語を使うことで、原語が持つさまざまな意味を失わずにすむ気がするから。
- イ カタカナの外国語は、聞き手や読み手に新鮮で華々しい印象を与えることもあるから。
- ウ カタカナの外国語を使うことで、日本語という言語の利便さを誇示することができるから。
- エ カタカナの外国語を使うことで、日本語の構文を保ったまま外国語・外来語を取り込めるから。
- オ カタカナの外国語は、日本が国際社会で高い地位を得るために欠かせないものだから。

問二 (カタカナの外国語)に対する筆者の考えに合致するものを、次から一つ選びなさい。

- ア 日本の経済発展や諸外国の文化の導入には欠かせないので、少なからず問題はあるが黙認するしかない。
- イ 感覚的に使うと日本語の構文が崩れてしまう可能性がある一方で、意味や用法を吟味する必要がある。
- ウ 有益であるが日本語の乱れにつながる面もあるので、使用する場面を限定すべきである。
- エ 外来語を意識することができない以上、原語をそのままカタカナにして使う現状を認めざるを得ない。
- オ 排除するわけにはいかないが、安直に使うのではなく、用法に十分注意して使うべきである。

語彙力を鍛える!! 追加問題 (※目標解答時間・正答率には含まない。)

A 次の漢字の読みを答えなさい。

① 近似的 (2) 「 」

② 安易 (4) 「 」

B 「排除」(9)の対義語として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

ア 団結 イ 受容 ウ 協力 エ 自由 オ 集合

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

自分の体を考えてみる。食べる(飲む)行為があり排泄ははせつという行為がある。息は呼気と吸気で成り立つ。睡眠と覚醒で、交感神経と副交感神経、動脈と静脈でいのちは維持されている。^①いのちを可能にしているのは、「二つの反対言葉たち」そうして「生」を営む体は、いつも「死」を孕はらんでいる。「生」が「死」を包むとも言えようし、「死」が「生」を包むとも言えよう。

臨床で働いていると、発生する言葉自身が反対ベクトルを持つことに気付く。スプリンクラー言葉と湧く言葉。

死が存在する場であっても、臨床ではガイドライン言葉、マニュアル言葉、機械的対応言葉がまるでスプリンクラーのように上から下に降りそそぐことが多い。告知、余命、副作用、生存率などなど。患者・家族・医療者は、お互いにスプリンクラー言葉で向き合わざるを得ない。一方、死を前にして生きている人と話していると、その人がポツリと生まれたての言葉を発することがある。本人も予期せぬ言葉。「終わろう」「生きたいなあ」「すんだー」「すまん」「誠意だなあ」「くそー」「あ、り、が、と」「一瞬だっ」「あーあ」。多くを語らない人の中に、地下水のような水脈があつて、そこから言葉が湧いてくる。湧く言葉には、いのちがある。

〈徳永進「反対言葉の群生地」(『どちらであっても』所収)〉

語注

*交感神経と副交感神経(2)：生命を維持するために働く自律神経を構成する神経で、「交感神経」は目覚めているときや活動時に、「副交感神経」は睡眠時やリラックスしているときに主に働く。 *ベクトル(5)：大きさの他に方向を持った量。力の働く向き。

問一 傍線部①についての説明として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア いのちは二項対立の考え方でとらえれば理解することが可能になるということ。
 イ いのちというものを説明するには、対立する言葉を使う必要があるということ。
 ウ いのちは体内に対立する関係が存在することによって保たれているということ。
 エ 生と死という対立するものが補い合うことでいのちを保つ力になるということ。
 オ 生と死について真剣に考えることがいのちを保つために必要であるということ。

問二 本文の内容に合致するものを、次から一つ選びなさい。

- ア 医者を使う言葉と患者が使う言葉は、正反対の意味を持っている場合が少なくない。
 イ 臨床の場には画一的な言葉が多いが、死期の近い人は思わず特別な言葉を発することがある。
 ウ 死を前にした人が発する言葉は生きる喜びを感じさせるが、臨床現場では機械的な言葉が多い。
 エ 機械的な言葉と死を前にした人が発する言葉は、言葉の正確さの上で大きく異なる。
 オ 機械的に思える医療現場のスプリンクラー言葉も、死を前にした人が発すると重みを持つ。

語彙力を鍛える!! 追加問題(※目標解答時間・正答率には含まない。)

A 次の漢字の読みを答えなさい。

- ①臨床(5)「」 「」 ②湧く(11)「」 「」

B 「孕む」(3)の意味として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 覆う イ 考える ウ 待つ エ 恐れる オ 含む

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

研究者をめざす多くの人は、「何を研究するか」(what)が一番大切だと思ふかもしれないが、その前に「どのように研究するか」(how)という問題意識の方がより重要だと私は考える。

科学的な発想や思考、問題を見つけるセンスから始まって、理論的な手法や実験的な手技しゅぎに見られる基本的な動所かんところは、すべての分野に共通している。その意味で、「どのように研究するか」という考え方や方法論をしっかりと身につけておけば、どんな分野の研究でもできることになる。

逆に、「何を研究するか」のみを重視すると、ある分野の知識を蓄えたあとで研究分野を変えた時に、一からやり直しになるかのような気がしてしまいがちである。その結果、同じ分野に安住することになり、新しい発想や異分野からの知見を取り入れることに、二の足を踏むことになりかねない。だから、まず「どのように研究するか」を十分に体得した上で、「何を研究するか」を考えた方がよい。

大学や大学院で始めた研究が、将来のライフワークとなる研究分野と一致したとしたら、それはとても幸運なことだが、そうでなくともがっかりすることはない。その過程で、「どのように研究するか」を学ぶことができたとしたら、それは研究者の卵として最大の財産になるに違いない。

〈酒井邦嘉「科学者という仕事」〉

問一 傍線部①の理由として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 「何を研究するか」は強制されて決めることだが、「どのように研究するか」は主体的に決めることだから。
 イ 「どのように研究するか」という方法論の中に「何を研究するか」という問題も含まれているから。
 ウ 「どのように研究するか」という考え方や方法論はどんな分野の研究にも活かすことができるから。
 エ 大学や大学院の段階では、「どのように研究するか」を身につけるだけで精一杯だから。
 オ 「どのように研究するか」についての答えは一つなのであれこれと考える必要はないから。

問二 科学研究について本文の内容に合致するものを、次から一つ選びなさい。

- ア 社会から注目される業績をあげるには「どのように研究するか」を優先的に考える必要がある。
 イ 科学者になるにはある分野の知識を蓄える必要がある、その後には研究の対象や方法を考えることになる。
 ウ 学生の時期の研究がライフワークとなるのは幸運なことであり、最大の財産になるに違いない。
 エ 研究者は「どのように研究するか」が重要で、「何を研究するか」を考えても財産にはならない。
 オ 自分の研究分野に凝り固まらずに、新たな発想や異分野の知見も取り入れたほうがよい。

語彙力を鍛える!! 追加問題 (※目標解答時間・正答率には含まない。)

A 次の単語の意味を答えなさい。

- ① 知見 (7) 「
 ② 体得 (8) 「

B 「二の足を踏む」(8)の意味として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 失敗する イ 迷う ウ 手間取る エ ためらう オ 繰り返す

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

今、若者たちは方言にどう向き合っているだろうか。彼らは教室で郷土の伝統方言を学び、方言俳句や方言詩を作る。一方、携帯メールでのやりとりにより、各地の方言を疑似的に織り交ぜて楽しむ。一見、無関係に思えるこれら二つの行為は、文字言語として方言を使用するという点で共通性を見出すことができる。自らはそれほど話すことのない方言で俳句や詩を綴り、メールを打つのだとしたら、若者世代の方言は文語的な使われ方をしているということになる。そうした文語化した方言の使用が、今や急速に拡大しつつある。

話し・聞くための言葉が、書き・読むための言葉に変わる。方言の文語化は、方言の長い歴史において大事件であると言っても過言ではない。しかし、この転身こそが、現代社会を生き抜くすべを方言に与えていることも確かである。文語として創作の世界を演出する役割は、現代方言が獲得した、特異だが重要な機能であると言えよう。

あらためて方言スローガンについて言うならば、それもまたこの文語化の流れの中にある現象である。方言スローガンは、口に出すより何かに描かれることで人々の注目を集める。「がんばっぺー」が普段の会話から切り出され、独立したスローガンとして文字に記されるとき、そこに被災地の人々の心を動かす新たな力が宿るのである。

〈小林隆「現代方言の文語化傾向」(『学鏡』第一〇九巻第三号所収)〉

【語注】*「がんばっぺー」(10) ……二〇一二年の東日本大震災からの復興スローガン。東北弁で「がんばろう」の意。

問一 傍線部①とあるが、どういうことか。最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 若者は本来話し言葉である郷土や各地の方言を書き言葉として使っているということ。
- イ 若者が書き言葉として使う方言は昔の古い言い回しに戻ってきているということ。
- ウ 若者は方言を日常の会話のためでなく文学作品の創作のために使っているということ。
- エ 若者が方言の豊かな表現力に気がついて共通語よりも積極的に使っているということ。
- オ 若者が方言の魅力にひかれて話し言葉はもちろん書き言葉としても使っているということ。

問二 方言についての筆者の考えに合致するものを、次から一つ選びなさい。

- ア 方言が文学的な表現に適していることに気がついたのは若者だけであった。
- イ 方言の長い歴史において文語化したことは大事件であり、嘆かわしいことである。
- ウ 方言を話すことのない若者でも創作には方言の方が使いやすいと感じている。
- エ 方言を積極的に使うことが、人々が現代社会を生き抜く上で重要である。
- オ 方言は創作のための文字言語として現代社会の中で生き残る方法を獲得した。

語彙力を鍛える!! 追加問題 (※目標解答時間・正答率には含まない。)

A 次の漢字の読みを答えなさい。

- ① 疑似的 (2) []
- ② 過言 (7) []

B 「特異」(8)の意味として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 自慢していること。
- イ 他のものと非常に違っていること。
- ウ 特別な力があること。
- エ 非常に優れたこと。
- オ 格別に驚くべきこと。

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

ノーベル文学賞に輝いたカズオ・イシグロさんは、両親とも日本人のだが、5歳で英国に渡り、日本語はほとんど話せない。初期の2作で描いた日本については「想像上の産物」と語っている。英語を母語としつつも、当初はルーツへの憧憬が勝っていたのだろうか。

出世作であり映画化もされた「日の名残り」では、第2次世界大戦前に貴族の名家に仕えた執事の目を通し、大英帝国の落日を描いた。こちらは英国の現代史への造詣が深く、かつ富裕層の文化や行動様式に通じていなければ描けるものではない。英国内ではマイノリティーと位置づけられるイシグロさんの偉業であろう。

授賞は世界に吹き荒れる「排外主義」への静かな反論ともとれる。遠い国に生を受けた人間が、伝統的な英文学の知識を身に付け、質の高い作品を発表する。グローバル化する世界で異なる文化や言語と交わることで、より新鮮で感性にあふれた作品世界を築くことができるのである。イシグロさんの足跡が証してみせた。

日本でも芥川賞を受けた中国人の楊逸さんや米国人のリービ英雄さんら、日本の出身ではない作家の多彩な活躍が目立つ。ドイツに居をかまえ、独語で執筆する多和田葉子さんもいる。「寛容」が生む豊かな交流は芸術に確かな成果を生み出すことは歴史に明らかだろう。今回の文学賞がその後押しとなることを祈りたい。

〈二〇一七年一〇月六日 日本経済新聞朝刊「春秋」〉

語注

*カズオ・イシグロ(1)：一九五四年、長崎県生まれ。英国(イギリス)人小説家。二〇一七年、ノーベル文学賞を受賞。 *排外主義(7)：外国人や外国の思想・文化などを、敵視し退ける考え方や立場のこと。 *楊逸(10)：一九六四年、中国生まれ。後、日本に住む。母語ではない日本語で創作を行う。 *リービ英雄(10)：一九五〇年、アメリカ生まれ。後、日本に住む。母語ではない日本語で創作を行う。 *多和田葉子(11)：一九六〇年、東京都生まれ。後、ドイツに住む。日本語と独語(ドイツ語)の両言語で創作を行う。

問一 傍線部①についての説明として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- A 日本人に対する偏見をなくすために、英国の歴史や文化を学んで作品を書き上げたということ。
- イ 日本人の両親を持つが英語を母語とする少数派として、英国の歴史や文化に従ってきたということ。
- ウ 日本人の両親を持つ英国の作家ながら、英国の歴史や文化に精通して名作を書いたということ。
- エ 日本人としての誇りを失わずに英国の社会の中で小説を作り、尊敬される地位を築いたということ。
- オ 日本人として生まれながらも、英国人以上に英国人らしい素養を身につけて執筆活動を行ったということ。

問二 本文の内容に合致するものを、次から一つ選びなさい。

- A 文学界では異文化の交流による成果が特に多く見られ、他の芸術分野にも影響を及ぼすだろう。
- イ 芸術を豊かにする異文化の交流が、おらかな精神のもとで今後も一層進められることを期待したい。
- ウ グローバル化する世界において排外主義が広がる傾向にあるが、ノーベル文学賞はその歯止めとなる。
- エ 芸術家は、グローバル化する世界で優れた作品を生むために、外国に生活拠点を移すことが望ましい。
- オ グローバル化がもたらす異文化の交流による芸術の豊かさは、拡大する排外主義への対抗力となる。

語彙力を鍛える!! 追加問題 (※目標解答時間・正答率には含まない。)

A 次の漢字の読みを答えなさい。

①落日(5) []

②造詣(5) []

B 次の単語の意味を答えなさい。

①マイノリティー(6) []

②グローバル化(8) []

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

笑いとは、決して気楽なものではない。時にそれは、生きるということの切なさ、難しさと結びついている。恐怖や不安が笑いの背景にあることも多い。イギリスのコメディでは、社会に対する風刺が笑いの原動力になっている。

その一方で、笑いのプロフェッショナルたちは、単なる批判では笑いにならないことも知っている。あくまでも、目的が「笑う」ことだとすれば、その大目標を達成するためには、絶妙なバランスと、繊細な文脈の設定が必要となるのだ。笑いのためには、時には身を捨てることも必要である。自分の欠点、ダメなところを客観的に見ることが出来るか。そのような「メタ認知」の能力が、笑いには欠かせない。ある人が、自分の欠点を懸命に隠そうとすると、周囲の人たちはかえってそのことが気になって仕方がなくなるのである。自分の一番痛いポイントを、人前でユーモアをもって話すことができる人は、それだけ自分自身から解放されている。

「ある人の価値は、何よりも、自分自身からどれくらい解放されているかということが決まる」。相対性理論を創った天才物理学者、アルベルト・アインシュタインはそのように言った。そのアインシュタインは、生涯にわたってユーモアのセンスを忘れなかった人だった。そのことと、アインシュタインが相対性理論という革命を成し遂げたことは関係しているかもしれない。

〈茂木健一郎『笑う脳』〉

語注 *メタ認知 (6) : 自分の思考や行動を客観的にとらえて、どのようなものが把握すること。

問一 傍線部①とあるが、どういうことか。最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 自分を客観的に見て欠点を直すことができ、他人の目より自分の価値観を大切にできるということ。
- イ 社会を冷静に観察し、さまざまな人間関係の中で適切なバランス感覚を持って生き抜けるということ。
- ウ 客観的な視点を持って、ユーモアを交えながら他人に対して自分をアピールできるということ。
- エ 自分の欠点を隠す努力を必要とせず、他人の目を恐れずに余裕を持って生きられるということ。
- オ 謙虚な態度をとることができ、他人から笑われても気にしないでいられるということ。

問二 本文の内容に合致するものを、次から一つ選びなさい。

- ア 笑いは生きるということの切なさ、難しさや自分の身を捨てることのつらさと結びついている。
- イ 自分自身を客観的に見ることができ、ユーモアを持って生きられることは、優れた能力である。
- ウ 笑いは単なる批判では成り立たず、コメディアンは自分を笑いものにする方法を重視している。
- エ アインシュタインにユーモアのセンスがなかったら、相対性理論が生まれることはなかった。
- オ 笑いには絶妙なバランスと繊細な文脈の設定が必要で、笑いのプロになるのは困難を極める。

語彙力を鍛える!! 追加問題 (※目標解答時間・正答率には含まない。)

A 次の漢字の読みを答えなさい。

- ① 風刺 (2) []
- ② 繊細 (4) []

B 次の単語の対義語を答えなさい。

- ① 目的 (3) []
- ② 客観的 (5) []

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

動物にとって一番重要なことは、自分の力で生きることである。猪いのししは四六時中外敵を警戒しなければならぬから、眠っている間でも、心も身も緊張させている。鋭い牙は伊達だてについているのではない。山芋を掘るなどの食物あさりや、敵と戦うための武器として、なくてはならないものなのだ。ところが、餌は山ほど与えられ、襲いかかる敵もない豚は、生きていくための努力は何も必要としない。豚をとりまく環境は安全そのもので、危険の要素は一つもない。そこで豚は、荒く剛かたい毛も鋭い牙も失ってしまったのである。

① 家畜化によって起こる変化を研究しているドイツのヘレ教授によると、豚の脳は脳容量が小さくなり、後頭葉の萎縮が甚だしく、溝が少なくなつて単純化するなど、脳の構造が低質化するという。この話は、現在の子どもの環境と発達という問題に、大変示唆的である。つまり、子どもたちをとりまく環境はますます人工化し、小さな部屋に安全に閉じこめられて親の強い管理下におかれているという状況は、まさに子どもは飼育され家畜化が促進していることを示しているからである。ということは、自分で生きる努力を減少させられた子どもたちは、危険に対する防衛反応の低下とともに、脳さえ低質化する可能性をはらんでいるおそれが十分あるということではないか。子豚よ、ぬくぬくと安全な家を出て、野を駆けよ。牙を研ぎ足を鍛え、泥水も飲み山芋をかじれ！

〈河合雅雄「望猿鏡から見た世界」〉

【語注】*豚(3)：豚は猪を家畜化した動物である。 *後頭葉(6)：脳の、視覚に関する機能を担う部分。

問一 傍線部①に関する説明として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 動物が、自分の力で生きる野性を失うことは、その動物を食料とする人間にとって都合がよい。
- イ 動物は、敵に襲われる緊張感がなくなること、防衛反応が低下し、性格が穏やかになっていく。
- ウ 動物は、食料獲得や環境に関する心配がなくなること、身を守り自力で生きていく機能が低下する。
- エ 動物は、食料確保の心配のない管理下に置かれることで、人間にとって心を通わせやすい存在になる。
- オ 動物は、生きる努力を必要としないようにすることで生育を促進し、短時間で太らせることができる。

問二 本文の内容に合致するものを、次から一つ選びなさい。

- ア 子どもの安全を考えるのは親としては自然な感情だが、動物の親はあえて子どもに危険を与える。
- イ 子どもたちが自分の力で生きていく能力を身につけるには、過保護な環境は望ましくない。
- ウ 野生の猪が豚よりもたくましいことからわかるように、子どもは室内では遊ばせない方がよい。
- エ 自分の子どもを強い管理下におこうとする親は、動物の生態についての知識が足りないと言える。
- オ 大人たちによる過度の管理によって、現代の子どもたちは脳の働きを低下させられてしまった。

語彙力を鍛える!! 追加問題 (※目標解答時間・正答率には含まない。)

A 次の漢字の読みを答えなさい。

- ① 萎縮(6) 「 」 大きい
- ② 甚だしい(7) 「 」
- ③ 示唆(8) 「 」

B 次の単語の対義語を答えなさい。

- ① 鋭い(5) 「 」
- ② 人工(8) 「 」

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

元禄の昔、芭蕉は出羽の旅で「閑さや岩にしみ入る蟬の声」と吟じた。では実際に耳にしたのは何ゼミか。威勢よく「シリシリ」と鳴くアブラゼミだと主張したのは歌人斎藤茂吉。独文学者小宮豊隆は「チー」と細い声のニイニゼミ説を唱えた。

芭蕉に遅れること二百数十年、茂吉は同じ季節に同じ寺を訪ねた。別の折には現地で捕れたゼミの標本も調べた。粘りに粘るが、最後は「私の結論には道程に落ち度があった」と降参した。

「時期や標高からするとアブラゼミ説よりニイニゼミ説に理があります」と昆虫学者の林正美・埼玉大名誉教授。ましてヒグラシの「カナカナカナ」やエゾハルゼミの「ミョーキん、ケケケ」では岩にしみ入る感じがしないと話す。

林さんによると日本に生息するゼミは推定35種。近年、本州市圏で生息域を広げるのは「シャワ、シャワ」と合唱するクマゼミだ。「ほかのゼミと違って踏み固められた公園の土中でも育つ。ヒートアイランド現象にも耐えられる」。

① 逆に減る兆しがあるのはニイニゼミやツクツクボウシだ。成長に欠かせない軟らかくて湿った土壌が細ったためらしい。ヒグラシも都会ではめっきり聞かなくなった。

（やがて死ぬけしきは見えず蟬の声）芭蕉。生き急ぐかのごとく一心不乱に鳴くゼミの声に、人は生命のはかなさを思う。環境激変の世、俳聖が聞いたとおぼしきニイニゼミとて運命は予測しがたい。二百数十年後、日本の夏空に蟬時雨は響いているだろうか。 <二〇一七年八月一四日 朝日新聞朝刊「天声人語」>

【語注】 *元禄(1)：江戸時代の年号。一六八八年～一七〇四年。 *芭蕉(1)：松尾芭蕉(二六四四年～二六九四年)。「おくのほそ道」を著した俳人。「俳聖」とも呼ばれる。 *出羽(1)：旧国名の一つ。現在の山形県と秋田県にあたる地域。 *ヒートアイランド現象(9)：アスファルトの多さや人工的な排熱を原因として、都市部の気温が周囲の地域よりも高くなる現象。

問一 傍線部①・②のゼミについての説明として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア ①は公園の固い土壌にも耐えられるが、②は山間部の軟らかく湿った土壌がないと成長できない。
- イ ①は主に本州市圏で生息しているが、②は東北の山間部でしか生息していない。
- ウ ①は固い土壌や高温の地域でも成長できるが、②は軟らかく湿った土壌がないと成長できない。
- エ ①は低地の固い土壌を好むが、②は低温の高地の軟らかく湿った土壌を好む。
- オ ①は成長する環境を選ばないが、②は低温で軟らかく湿った土壌の環境を好む。

問二 本文の内容に合致するものを、次から一つ選びなさい。

- ア 芭蕉の句のゼミの種類を斎藤茂吉は誤ったが、誤りを認めた態度は潔いと評価された。
- イ 芭蕉の句のゼミの種類について斎藤茂吉は現地調査をしたが、小宮豊隆は生物学的な論理で推定した。
- ウ 昆虫学者の林正美は、芭蕉の句のゼミの種類を、描かれた情景と古典文学史の観点を根拠に特定した。
- エ 日本に生息するゼミの種類は推定三十五種類だが、生息域を広げる種もある一方で減らす種もある。
- オ 現在のような環境の大きな変化が続けば、二百数十年後の日本ではゼミの声は響かなくなる。

語彙力を鍛える!! 追加問題 (※目標解答時間・正答率には含まない。)

A 次の漢字の読みを答えなさい。

- ① 唱える (3) ー える ー ② 兆し (10) ー ー し ー

B 「一心不乱に」(12)を言い換えた言葉として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア まじめに ー イ 激しく ー ウ けなげに ー エ むなしく ー オ ひたすら ー

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

電信を意味するテレグラフの起源は18世紀末にフランスで考案された手動の「腕木通信」^{うでぎ}だった。約10メートルの柱の上に腕の形をした木を取り付け、ワイヤで動かして遠方にリレー方式でメッセージを伝えた。ナポレオンはこれを使って欧州遠征で大成功したという(井上伸雄著「情報通信技術はどのように発達してきたのか」ベレ出版)。

やがて19世紀に電信機が発明されて通信手段の主流になり、一八六五年のきょう万国電信連合が設立された。これを継承した国際電気通信連合(ITU)は「世界情報社会・電気通信の日」と定める。

約百五十年で通信技術は大きく進化し、今やインターネットの普及で情報のやりとりは飛躍的に便利になった。だがこれを悪用する犯罪の脅威も増している。

① 増殖機能を持つ身代金要求型のコンピュータウイルスが日本を含む百五十カ国以上に拡散した。感染するとパソコンに保存されたデータが使えなくなり、解除するために金銭を要求する。*米国家安全保障局(NSA)が開発したソフトが盗まれて悪用された疑いがあるという。

*英国では国民医療サービスのシステムが攻撃されて、一部の医療機関が診療や手術の中止に追い込まれた。命にかかわる危険もあっただけに看過できない。

目視が頼りだった腕木通信と違い、現代の目に見えないサイバー空間の間は犯罪や情報操作の温床にもなり得る。わがパソコンは大丈夫かと、セキュリティを再確認する心がけも求められる情報通信の記念日である。

〈二〇一七年五月一七日 毎日新聞朝刊「余録」〉

語注

*きょう(4)：五月一七日。万国電信連合は一八六五年五月一七日にパリで設立された。 *米(9)：米国。アメリカ。

*英国(11)：イギリス。

問一 傍線部①についての説明として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- A このウイルスは、米国家機関のソフトが悪用されて作られたものだという可能性が指摘されている。
- イ このウイルスは国家の安全のために開発されたものだが、悪用された結果国家の安全が脅かされた。
- ウ このウイルスに感染すると保存したデータが使えなくなる上に、自動的に金銭が引き出される。
- エ このウイルスは百五十カ国以上に拡散したが、最も大きな被害を受けたのは米国と英国だった。
- オ このウイルスは増殖機能を持つために、感染するとパソコン内の幅広い範囲のデータが盗み出される。

問二 本文の内容に合致するものを、次から一つ選びなさい。

- A 腕木通信を使ってナポレオンが勝利したように、現代でも通信技術は戦争によって発達を促される。
- イ 腕木通信が活躍した百五十年前に比べると通信技術は大きく進化したが、反面で犯罪の危険性も増した。
- ウ サイバー空間が悪用されることを防ぐには、各人が情報のセキュリティ意識を高めるしかない。
- エ 情報通信の発達につれ、悪用に備えた情報セキュリティの強化が必要になる事態が生じてくる。
- オ 情報通信が便利になるにつれ、それを悪用した犯罪が増加するので、何らかの規制は必要になるだろう。

語彙力を鍛える!! 追加問題 (※目標解答時間・正答率には含まない。)

A 次の漢字の読みを答えなさい。

①普及(6) 一

②脅威(7) 一

B 次の単語の意味を答えなさい。

①看過(12) 一

②目視(13) 一

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

日本には、枯淡なモノクロームの水墨画も併せもつモノクロームの多様で奥深い表現性の世界もある。中国から学んだ水墨画は、和紙や絹地の上に墨の濃淡のグラデーションとにじみ、かすれの表現効果を最大限に引きだした芸術表現だろう。

「墨に五彩あり」といわれるのは、墨の巧みな筆使いによる微妙な濃淡のぼかしやにじみ、かすれの効果を生かし、遠近感や立体感ばかりでなく、材質感が墨で見事に再現されるからである。雪舟や長谷川等伯の水墨画の傑作には、墨一色で表現されているにもかかわらず、華やかな色彩や空間を感じるから、不思議この上ない。

日本絵画は、一般に武家の色のない水墨画好みと、貴族の華美な大和絵好みに分かれるようだ。墨による表現でも、絵具にも負けないほどの多彩な表現ができるという自負と、ぼかし表現への探求心が、自然との融合を究極の美とした日本人の精神性と一致したからであろう。

本来のかたちや色が、霞がかかったように薄らいでいたり、別の色に変化する見せ方は、今なお日本のグラフィック・デザイナーが得意とする表現であり、デザイナーにとっては必須のテクニックである。日本のポスターにはぼかし効果を用いた巧みな表現が欧米に比べ、きわめて多い。

これは日本人の血に流れている脆弱で危なげなものに対するもの。あわれの情感の表現だからであろう。かたちと色きたのである。

〈三井秀樹「かたちの日本美」〉

語法

- * 枯淡(1) : 作品や人格が俗でなく、あっさりした中に、深い趣があること。 * モノクローム(1) : 一色だけの絵や写真など。
- * 雪舟(5) : 一四二〇年～一五〇六年。室町時代に活躍した水墨画家。禅僧。 * 長谷川等伯(5) : 一五三九年～一六一〇年。安土桃山時代を代表する絵師。 * 大和絵(7) : 平安時代の国風文化の時期に発達した日本的な絵画。中国風の「唐絵」に対する呼称。 * ものあわれ(13) : 人生のさまざまな面に触れて起る、しみじみとした情趣。

問一 傍線部①の理由の説明として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 日本人は、中国から水墨画の技法を取り入れた際、特に濃淡のぼかし表現を深く学んだから。
- イ 日本の水墨画は、高度な技術により、遠近感や立体感、さらには材質感をも表現しているから。
- ウ 日本人は、中国から学んだ水墨画に華やかな大和絵の技法を融合させて、色彩を表現しているから。
- エ 日本の水墨画は、墨一色でありながら、不思議と華やかな色彩や空間を感じさせるから。
- オ 日本人は、互いの対立を避け、調和、融合を最も美しいものとみなす精神を持っているから。

問二 本文の内容に合致するものを、次から一つ選びなさい。

- ア 日本人は水墨画を中国から学んだが、和紙や絹地に合わせて中国より優れた独自の筆使いを完成させた。
- イ 日本の水墨画の傑作が墨一色でも華やかな色彩や空間を感じさせることは、日本の気候とも関連する。
- ウ 日本のデザイナーは、欧米にはないぼかし表現を、欠かせない技巧として身につけている。
- エ 日本のデザイナーがぼかし表現を得意とするのは、ものあわれの情感の表現に適するためと考えられる。
- オ 日本の美しい自然を表現するには、ぼかしやにじみなどの独自の美の文化が不可欠であった。

語彙力を鍛える!! 追加問題 (※目標解答時間・正答率には含まない。)

- A 次の漢字の読みを答えなさい。
 - ① 濃淡 (2) 「 」
 - ② 傑作 (5) 「 」
- B 「自負」(8)の意味として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。
 - ア 自分だけの特技を持つこと。
 - イ 責任を取る覚悟を持つこと。
 - ウ 自分の才能に自信を持つこと。
 - エ 人よりプライドを強く持つこと。
 - オ 負けず嫌いな気持ちを持つこと。

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

わが国の人びとの社会的規範の基本は、おおむね、「世間」に準拠して、はずかしくない行動をすることであった。

*唯一絶対神（超越者）をもたないわが国の人びとは、「世間の目」から見られたときの自分を「はじむ」という、きわめて状況的な倫理を内面につちかてきた。普遍的な価値基準をもたなかったため、「世間」の規準から自分だけが逸脱することのないように、「世間」と自分とのあいだに生じるズレを、たえず微調整しながら生きてきたのである。それが、「世間なみ」に生きるということにほかならない。

唯一絶対神（超越神）を信じている西洋の人たちは、いわば神にいつも見られているという意識をとおして、自己規制をはたらかせてきた。たとえ他者の「まなざし」が介在していなくとも、つよい自己規制をはたかせることができたのは、おそらく、そのためである。それについて、わが国の人びとは、「世間」の人たちの「まなざし」（世間の目）にとられるという状況の過程のなかで、つよい自己規制をはたかせてきたのである。

①このような自己規制のあり方がいは、なにかを意思決定するばあいにも、およそ、つぎのようなちがいとしてあらわれるであろう。私たちは、概して、まわりの人たちの「まなざし」をうかがいながら、他者の期待に同調していく過程のなかで、自分の意思をしいにかためてゆこうとする。そんな意思決定のあり方は、まず自分の意思をきめて、それからまわりの人たちにその結果を説得してゆこうとする生き方と、その方向性がまことに対照的である。

〈井上忠司「世間体」の構造〉

【語注】*唯一絶対神（①）…神として認められる唯一の存在。一神教であるユダヤ教、キリスト教、イスラム教などにおける神のこと。

問一 傍線部①についての説明として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 西洋人の自己規制は他者の目の有無に左右されず、日本人の自己規制は他者の眼差しに左右される。
 イ 西洋では神にはじないよう意識して行動するが、日本では世間から褒められるように行動する。
 ウ 西洋人は神の目を意識して慎重深く生きるが、日本人は信仰心が弱く、享乐的に生きる。
 エ 西洋人は独自の意見を持っているが、日本人は自分なりの意見を持つことができない。
 オ 西洋人は宗教的な強い倫理観を持つが、日本人は周囲の目を気にするばかりで倫理観が弱い。

問二 本文の内容に合致しないものを、次から一つ選びなさい。

- ア 日本人は世間の規準からずれないように生きるが、西洋人は神の目を意識しながら生きている。
 イ 日本人は、「周囲の意見を聞く前にまず自分自身の意思を固める」という意思決定をしない傾向がある。
 ウ 唯一神という絶対的な存在を持たない日本人は、精神的な支柱がないので意思が弱くなりがちである。
 エ 日本人は社会での生活において、世間の目を強く気にしており、それが意思決定の仕方にも表れている。
 オ 日本人の価値規準は、普遍的なものとは言いがたく、そのときどきの状況に依存するものである。

【語彙力を鍛える!! 追加問題】（※目標解答時間・正答率には含まない。）

A 次の漢字の読みを答えなさい。

- ① 準拠 (一) 「 」 ② 逸脱 (三) 「 」 「 」

B 「普通」(三)の対義語として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 個性 イ 誤解 ウ 偏見 エ 中立 オ 特殊

「 」 「 」

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

伝統的な工芸品を活性化するために、様々な試みが講じられている。たとえば、現在の生活様式にあったデザインの導入であるとか、新しい用い方の提案とかである。自分もそんな活動に加わったこともある。そういう時に痛切に思うのは、漆器にしても陶磁器にしても、問題の本質はいかに魅力的なものを生み出すかではなく、それらを魅力的に味わう暮らしをいかに再興できるかである。漆器が売れないのは漆器の人氣が失われたためではない。今日でも素晴らしい漆器を見れば人々は感動する。しかし、それを味わい楽しむ暮らしの余白がどんどんと失われているのである。

伝統工芸品に限らず、現代のプロダクツも同様である。豪華さや所有の多寡ではなく、利用の深度が大事なのだ。よりよく使い込む場所がないと、ものは成就しないし、ものに託された暮らしの豊かさも成就しない。だから僕たちは今、未来に向けて住まいのかたちを変えていかなくてはならない。育つものはかたちを変える。「家」も同様である。

①ものを捨てるのはその一歩である。「もつたない」をより前向きに発展させる意味で「捨てる」のである。どうでもいい家財道具を世界一たくさん所有している国の人から脱皮して、簡潔さを背景にももの素敵さを日常空間の中で開花させることのできる繊細な感受性をたずさえた国の人に立ち返らなくてはいけない。

持つよりもなくすこと。そこに住まいのかたちを作り直していくヒントがある。何も無いテーブルの上に箸置きを配する。そこに箸がぴしりと決まったら、暮らしはすでに豊かなのである。

〈原研哉『日本のデザイン』〉

語注 *プロダクツ(6) …製品。現代の製品。工業製品。

問一 傍線部①とあるが、何のために「ものを捨てる」のか。最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 無駄を省く思考に賛同し、ものを浪費する人々への批判を表明するため。
 イ 新たな製品の購入を促し、それによって経済を活性化させるため。
 ウ 十分に活かせていないものに本来の価値を発揮させ、暮らしを豊かにするため。
 エ 古いものの価値を見直し、伝統的な工芸に対する理解を深めるため。
 オ 華美な装飾を排除して、実用的な意味で必要なものだけを手に置くため。

問二 本文の内容に合致するものを、次から一つ選びなさい。

- ア 漆器が売れないのは、暮らしに経済的、時間的な余裕がなく、味わう機会を持ってないからである。
 イ ものは、活かす場所がないと役目を果たさないし、ものを通した暮らしの豊かさも実現しない。
 ウ ものを活かすことは、暮らしの簡潔さと繊細な感受性を必要とし、一般的な日本人には困難である。
 エ 豊かな暮らしとは、日用品についても斬新なデザインを追求して、個性的に暮らしすることである。
 オ 日本人が家財道具をたくさん所有するのは、消費や所有を美德だと思いついてからである。

語彙力を鍛える!! 追加問題(※目標解答時間・正答率には含まない。)

A 次の漢字の読みを答えなさい。

①漆器(3) []

[]

②成就(7) []

[]

B 「多寡」(6)と同じ構造の熟語を、次から一つ選びなさい。

ア 増量 イ 高貴 ウ 少年 エ 善悪 オ 被害

[]

[]

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

今の世の中の趨勢は、物事を早く決めたいという決断主義です。①何を決めるかよりも、決めること自体を自己目的化している面すらあるように思われます。そしてこの背景に、私たちの社会で経済が占めている部分の拡大があることは明らかです。経済活動や情報の流れなど、あらゆるものがスピードを増しています。政治も、経済の足手まといにならないように、これに合わせるべきだ、という声が高まっている。高速の時代において、民主政治は何と云う遅延行為なのか、というわけです。

しかし、権限をもつ誰かがさっさと決めるのではなく、みなで議論して決めるようなやり方に、意味はないでしょうか。実は、早い流れに抗することそのものに意義があるのではないか。経済や情報の流れは、その場その場での即座の対応を迫ってきます。過去をふり返っている時間はそこにはありません。自分のやっていることが、未来に対してどんな影響を及ぼすのかを、立ち止まって考えている余裕もない。その結果として、経済合理性だけを追求し、目先の利益や便利さだけを求めていけば、私たちはとんでもない間違いを犯してしまうかもしれません。

こうした趨勢そのものを変えることはできないとしても、その一方で、過去と未来の間としての現在にふみとどまって、自分たちの行動がもたらす影響について、考えをめぐらしてみること必要なのではないのでしょうか。

時代の流れに乗って早く決めなければならぬ、政治ももっとスピードアップするべきだという考えは、政治の否定につながります。政治の大きな存在意義は、そうした流れに逆らうところにあるのではないかと思うのです。

〈杉田敦「政治的思考」〉

問一 傍線部①とあるが、どういうことか。最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア ある議題について十分に議論することよりも、決定するという行為そのものを重視しているということ。
- イ 論じるべき議題も決めていないのに、決めた後にどうするかを先に考えているということ。
- ウ 何を決めるかを重視せず、どのようにして決めるかという手続きばかりを重視しているということ。
- エ 物事を決定することを急ぐあまり、決定すること自体を自分の人生の目標にしてしまうということ。
- オ 物事を決めることを目的とせず、自分自身が決定の過程に参加することを目的としているということ。

問二 本文の内容に合致しないものを、次から一つ選びなさい。

- ア スピードを優先して権力者の独断で決めてしまうのではなく、時間をかけてもみなで議論するのがよい。
- イ 短期的な利益だけを追求すると過ちを犯しかねないので、自分たちの行動を省みることも必要である。
- ウ 政治の存在意義を考えるならば、政治の否定につながる経済活動優先の風潮に逆らうことも求められる。
- エ 経済の流れの速度に政治を合わせるべきだという考え方を疑い、立ち止まって考えることも必要である。
- オ 速決を要する事柄については、経済活動の得意とする分野であるため、政治が無理に決めなくてもよい。

語彙力を鍛える!! 追加問題

(※目標解答時間・正答率には含まない。)

A 次の漢字の読みを答えなさい。

- ①占める (こ) [め]
- ②迫る (お) [る]

B 「否定」(13)の対義語を答えなさい。

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

① 教育における百年の計を定めようと、教育基本法を改定したり、国家的な教育戦略を策定するというような場合に、教育がビジネスや行政の言葉だけで語られるというのは、素材の味や特質を知らずに、料理のメニューをつくっているようなもので、そこでつくられる料理は見かけは旨そうに見えても、すぐに飽きられる味気のないものならざるを得ない。料理の素材が生ものであるように、生徒もまたひとりひとり違う顔を持った生ものであり、料理が調理の現場で、生ものコンディションや性質と対話しながら行われるように、教育もまた生徒ひとりひとりの性質や状態を見ながら「現場」で行われるものである。

教育の現場に、ビジネスの等価交換的な価値観を導入してゆけば、利につながる学問は必ず**貶められる**ことになる。教育投資は、国際競争の場で勝ち抜くという形で回収されねばならないと考えるようになり、教育を受けるものもそれがキャリアパスにとって有益であり、かつ立身出世の武器になるものだけを選択するようになるだろう。

しかし、これを繰り返していれば、いずれ等価交換的な価値観でしかものを考えることのできない生徒を大量に再生産してゆくことになる。教育というものの恐ろしさは、先生が生徒に授ける知識と同時に、その授け方、方法、プロセスのすべてがそのまま生徒に授けられてしまうということである。私が教育を語る言葉づかいを問題にする理由はここに存している。

もし、現在教育の現場に問題があるとすれば、それは教育を語るにふさわしい言葉づかいを喪失しているということであり、投資して回収するといったモデルで回復できるような問題ではないのである。

〈平川克美「教育をビジネスの言葉で語るな」(「経済成長という病」所収)〉

語彙 *等価交換(7) : 価値の等しいものをどうしを交換すること。筆者は本文の前の部分で、人生には等価交換が成り立たない事柄が多々あると述べている。 *キャリアパス(9) : 将来希望する職業、地位に就くための過程。計画。 *モデル(15) : 型。形式。

問一 傍線部①の方法で生まれた教育は、どのようなものになるか。最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 経営者や政治家の意見を優先して、一部の企業や国家の考えのみを押しつける危険なもの。
イ 表向きは立派でも、現場の生徒の実情に適さない、奥行きがなく内容の乏しいもの。
ウ 形式はきれいに整えられていても、内容は現場の要求とは逆の、手を抜いた粗末なもの。
エ 誰もが納得する理想的な教育のあり方を示すものだが、現場の実情にまったく合わないもの。
オ 生徒はこうあってほしいという理念ばかりで、社会で生きていく上では役に立たないもの。

問二 本文の内容に合致するものを、次から一つ選びなさい。

- ア 教育は学校現場で生徒ひとりひとりと向き合って行うべきものであり、社会と関わる必要はない。
イ 経済的な利益につながらない学問が貶められる状況は、日本の国際競争力の低下に原因がある。
ウ 等価交換的な価値観は教育の現場で先生から生徒に受け継がれており、やがて常識となっていく。
エ ビジネスの価値観では、教育は国際競争に勝ち抜き立身出世につながるものばかりが重視される。
オ 現在は教育を語る資格のない者が教育の現場を担っており、真の教育者がながしるにされている。

語彙力を鍛える!! 追加問題 (※目標解答時間・正答率には含まない。)

A 次の漢字の読みを答えなさい。

- ① 飽きる (3) 一 きる ② 授ける (11) 一 ける 一

B 「喪失」(14)の対義語として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 調達 イ 確保 ウ 拾得 エ 獲得 オ 体得

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

最近では、どこで何をしてもポイントカードを持っているかどうかを聞かれる。百貨店のポイントカードは、年会費を支払いメンバーになると、特典を得ることができる。たとえば、だいまる大丸では購買額の七％を還元するポイントカード・サービスがあり、購買額によって還元率は最大一〇％にまでなるそうだ。

① このポイントカードのシステムも、巧妙な差別化戦略なのである。

ポイントカードは、メンバーだけに対する実質値下げである。ここでは、メンバーだけ、というところがミソなのだ。もし大丸が、店頭価格を素朴に一〇％割り引いてしまうと、たとえば高島屋たがしまやで普段安い物をやる客も、安さに釣られてやってくることになるだろう。しかし客が増えればよいというのは浅はかで、当然客を奪われた競争相手も対抗措置として値下げをせざるを得ない。その結果、値下げだけが残って、客はもとのままということになる可能性が高い。つまり、店頭での値下げを直接競おうとすると、競争相手の反発を買ひ、結局はお互いに疲弊する体力勝負になってしまうのである。

一方、ポイントカードを使って、自分の顧客だけ値下げするという場合は、事情が少し違う。メンバー以外には値下げにならないので、必ずしも競争相手の顧客を奪い取らないからだ。つまり、ポイントカードは、直接の競争を避けつつ、自分の顧客からの需要を喚起するという、しゃれた戦略なのである。

もともと、ポイントカードを使った囲い込み行為そのものは、競争をおおる行為である。苦し紛れに競争相手のポイントカードのメンバーには、無料で自店のポイントカードを与えるというような、なりふりかまわぬ囲い込み戦略に出る百貨店が、そのうちに出現するかもしれない。

〈梶井厚志「コトバの戦略的思考」〉

語注 *大丸(2)・高島屋(6)……ともに大手の百貨店。

問一 傍線部①の「差別化戦略」についての説明として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

- ア 実質的な値下げになる仕組みにすることで安さの印象を与え、メンバー加入へ誘導する戦略。
- イ 特典を受けられる客を限定することで無制限な競争を避けつつ、利益を確保する戦略。
- ウ 購買額に応じて販売価格を下げる仕組みで他社と直接的に競争し、確実に顧客を奪い取ろうとする戦略。
- エ 一般の客と区別することで特別な客という印象を与え、購買欲を刺激する戦略。
- オ メンバーという資格を持たせることで優越感を与え、購買そのものを快楽にする戦略。

問二 本文の説明の仕方について述べたものとして適当でないものを、次から一つ選びなさい。

- ア 具体的事例に即して考察を進めることで、読み手の理解を助けている。
- イ 仮定の事例をつくって考察することで、問題点を明確にしている。
- ウ 具体的な事例を示して興味を引き、説明を展開するための導入としている。
- エ 実際の事例に批判を加えることで、筆者の立場を明確にしている。
- オ 将来に起こる事例の予測をすることで、筆者の説明を補強している。

語彙力を鍛える!! 追加問題 (※目標解答時間・正答率には含まない。)

A 次の漢字の読みを答えなさい。

- ① 措置 (7) []
- ② 疲弊 (9) []

B 「需要」(12)の対義語を答えなさい。

[]

次の文章を制限時間内に読んで、後の問いに答えなさい。

世論としてのうわさは、「言いたい」が鍵になる。言論統制下にあつて言いたくないことが言えないがゆえに、うわさのかたちで言いたいことを表明する。ゴシップ（人に関するうわさ）が悪口になりがちなのは、表だって言えないことがうわさになるからだ。「言えないけれど言いたい悪口」がうわさの形式を借りて表明され、広まっていくのである。

そして、うわさに参加する大きな動機がもう一つある。それは、人と「つながりたい」である。人と人との日常的な会話、すなわち「おしゃべり」を通じてうわさは伝わっていく。人との関係を築く上で、うわさは役に立ってきたのである。

うわさには「ここだけの話だけれど」という枕詞まくらごころばいがしばしばつく。

本当に「ここだけの話」ではない。実はその話をみんな知っていたという経験を持つ人は少なくないはずである。

「ここだけの話」という枕詞は、「他人は知らないことを知っている」という優越感の表明であり、「その話をあなたにだけに教える」と仲間意識を強めるために使われる。「二人が、ここだけの話」をたったいま共有した」という新たな「秘密」からは親密性も生まれる。秘密の話の共有は人との「つながり」、関係性を強めてくれるのである。

さらに、「返報性の規範」も働く。心理学でいう「返報性の規範」とは、相手から好意や恩などを受けた場合、同等かそれ以上のお返しをせずにはいられなくなることを指す。

「私にだけ特別に秘密を教えてくださいました」のであれば、自分がちよつとした秘密の情報を得る機会があれば、その人には真つ先に伝えようと思う。後日、そんな機会がやってくると、「ここだけの話」を今度はあなたからその人へ伝える。こうして、ますますその人との「つながり」、関係性が強まるのである。

〈松田美佐「うわさとは何か」〉

【50字注】

*枕詞（マ）…ここでは「前置き」の意。

*返報（12）…他者から受けた行為に報いること。

問一 「うわさ」にはどのような特徴があるか。適当でないものを、次から一つ選びなさい。

- ア 言いたいことが制約のために自由に言えない場合に、意思伝達の手段を与えてくれるという特徴。
- イ 「ここだけの話」という形で秘密の話と共有させ、相手との仲間意識や親密性を強めてくれるという特徴。
- ウ 秘密の話としての伝達により、「他人は知らないことを知っている」という優越感をもたらすという特徴。
- エ 好意や恩を互いに与え合う関係をつくり出し、相手との関係性を強める機会を与えてくれるという特徴。
- オ 面と向かつて言えない悪口を自然と本人の耳に届け、反省を促すことができるという特徴。

問二 本文の内容に合致するものを、次から一つ選びなさい。

- ア うわさが広まるのは、人間の本質的な心の中に「人の悪口を言いたい」という欲求があるからである。
- イ うわさは公然と話されはしませんが、その内容を誰もが知っていたということも少なくない。
- ウ うわさをし合うことで仲間意識を強めることができるが、同時に人間関係を悪化させる場合もある。
- エ 「ここだけの話」は単なる枕詞に過ぎず、同じ形で複数の人に話しているからこそうわさは広まる。
- オ お返しをしなければならぬという暗黙のルールがあることで、常に新しいうわさが生まれてくる。

語彙力を鍛える!! 追加問題（※目標解答時間・正答率には含まない。）

A 次の漢字の読みを答えなさい。

- ① 鍵（一） []
- ② 築く（五） []
- く

B 「優越感」（9）の対義語を答えなさい。

[]